



「ひろおか奨善塾」による地域とのつながりの深化



塩尻市立広丘小学校PTA

1 学校紹介

塩尻市広丘は、かつて島木赤彦・太田水穂・若山牧水らの歌人が集い活動した場所であることから、“短歌の里”とも呼ばれ親しまれている。広丘小学校は、この地に明治22年に尋常小学校として開校した。土地柄や島木赤彦が校長を務めた縁もあり、今も子どもたちは短歌を授業で詠むなど、短歌とのつながりを感じ、伝統を大切にしながら学びあっている。

学校目標の「正しく 強く 美しく」は、島木が制定した「新教訓 奨善会」の冒頭からとったものであり、本校ではこの精神が教育の柱として現在まで脈々と引き継がれている。中でも「公事（公共に尽くすを喜ばむべし）」の精神を大切にしており、児童会を“奨善会”と呼び、自ら進んで（奨）良いこと（善）をする心を誇りとしている。

2 PTA組織

理事	会長、副会長（保護者3名・学校長）、幹事（教職員3名）、監事（保護者2名） 学級部・教養部・施設厚生部の正副部長、校外指導部（地域別に4支部）の正副支部長
評議員	学級評議員（学級ごとに選出された学級部員、教養部員、施設厚生部員） 地区評議員（各地域別支部の育成担当役員）

3 PTA運営の状況

事業部・地区ごとに計画を立て事業を実施している。

例）学級PTA、PTA作業、体操着販売、ひろおか奨善塾（学校開放講座）、会報誌作成、安全マップの更新、地区行事への協力、夏休みのラジオ体操

1 研究テーマ

PTA活動による地域とのつながりの深化

2 研究テーマ設定の趣旨

昨今は共働き世帯の増加や過干渉を避ける考え方等により、地域のつながりが希薄化してきていることを感じている。このような生活スタイルや考え方の多様化については理解できるものの、子どもたちが地域で安全・安心に生活できる環境づくりや、お互いが助けあう社会を構築していくためにも、今後も地域のつながりは大切なものになるのではないだろうか。また、子どもたちが地域という家庭や学校とは異なる環境に触れることは、子どもたちが社会の中で過ごしていることを実感するためにも大切なものであると考えている。

広丘小学校PTAでは、上記の学校として目指す姿に共感し、子どもたちや社会にとって良いと考える様々な活動を進めている。その中の一つである「ひろおか奨善塾」では、子どもたちと地域の人々たちが楽しみながらつながり合うことを目的の一つとし、地区公民館と共同で、広丘地区の歴史探訪やもの

づくり体験などの講座を開いている。我々は、この「ひろおか奨善塾」をより活性化していくことで、地域のつながりを深められるのではないかと考えた。現在、地域の商店に講座の講師として協力してもらっているが、より地域のつながりを深めるためには、多くの方々と子どもたちが触れ合うことが重要である。そのためには地域の方々が受講者としても参加し、子どもたちと同じ目線で触れ合うことができる機会があるとよいのではないかと考えた。本研究では、このような姿を奨善塾のありたい姿として描き、実現に向けて研究することとした。

3 研究内容

【現状のふりかえり】

講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月ごろに開催。 ・ 創業から70年以上となる地域の和菓子店や、NPO法人等の協力を得て8程度の講座を開催 ・ 講座内容：和菓子作り体験、そば打ち体験、けん玉教室、広丘まち歩き等
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や地域のコミュニティセンター（えんてらす）を活用
参加費用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の補助金等を活用し、参加費は無料（材料費等がかかる場合は受益者負担として500円程度負担）としている。
告知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものいる家庭には学校を通じた資料を配布。学校経由で申し込み頂く。 ・ 地域住民に対しては、公民館発行の回覧板により通知し、公民館へ電話にて申し込み頂く。
参加状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度の参加総数162名（84軒）。 ・ 子ども・保護者97.5%、地域住民2.5%

- ほとんどの参加者が子どもおよび保護者であり、地域からの参加者はまだまだ少ない状況にある。
- 地域の方が奨善塾を知る手段は、回覧板のみとなっている。
- 子ども・地域の方問わず参加者の満足度は高い。なかなか体験できないことに対する満足感のほかに、地域の歴史やお店に対する理解を深められたことに対して満足した声も挙がっている。

【対応の方向性】

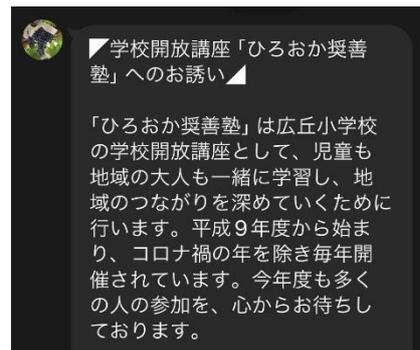
奨善塾の現状は、参加者のほとんどが子ども及び保護者となっており、子どもたちに向けた課外活動の一つとしての一面が強くなっている。それ自体は奨善塾における重要な目的の一つであり否定するものではないが、本研究において目指す姿を実現するためには地域からの参加者を増やしていくことが重要である。

地域の方々に参加していただくためにはどうすればよいか検討したところ、我々はまだ地域の方々への周知が不足していると仮説を立てた。奨善塾自体は平成9年から実施している歴史のあるものであるが、現在実施している地域へのアピールは公民館での回覧板のみであり、地域の方々が奨善塾の情報に触れる機会は決して多くはない。そこで、周知手段を広げて地域の方々に奨善塾を知っていただく機会を増やすことを取り組みの方向性とした。

【方策の検討・実施】

公民館とも周知手段を検討する中で、すでにあるメディアやSNS等を利用して周知手段を広げることとした。具体的には、下記的手段による情報周知と申し込みへの誘導を行うこととした。

- 地域の新聞「市民タイムス」への記事掲載
- 塩尻市公式LINEでの発信
- 塩尻市の広報誌「広報しおじり」への掲載
- 塩尻市ホームページへの掲載
- 公民館だより（回覧板）

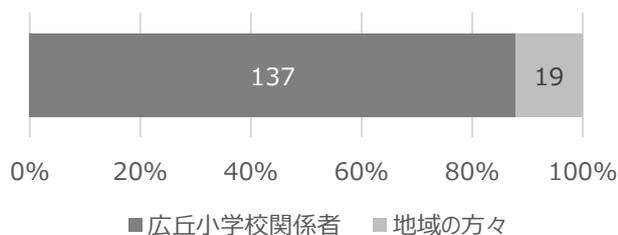


〔塩尻市公式LINEでの発信〕

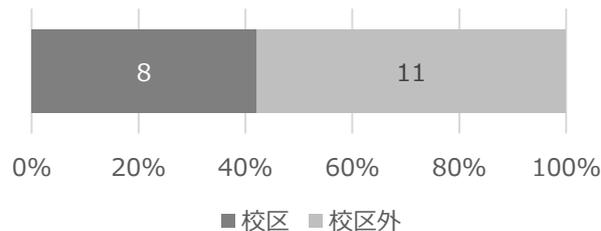
4 研究の成果

【参加申し込み状況】

各講座に申し込み頂いた地域の方々は、合計で19名（12.2%）と、昨年よりも大幅に増加した。どのような地域の方々からの申し込みがあったかを確認すると、広丘小学校の校区の方だけでなく、広く市内にお住まいの方からの申し込みがあった。周知方法を増やし、より地域の方々が目にする機会の多い媒体に掲載をしたことで、より広域に発信した効果が出ていることが確認できた。



〔R6年度申込数の内訳〕



〔地域からの申込者の内訳〕

【当日の様子】

10月19日に開催したR6年度奨善塾では、8講座を開き、学校内からは82の家庭から164名、地域からは17名に参加いただいた。各講座では参加者同士が同じものを見たり、できあがったものを見せ合ったりと、楽しみながら接点を持つことができた。また、これまでの奨善塾と同様に、地域のお店、企業、NPOからお越しいただいた講師の方々とのつながりを持つ機会とすることができた。



広丘の歴史を探る“ひろおか巡り”

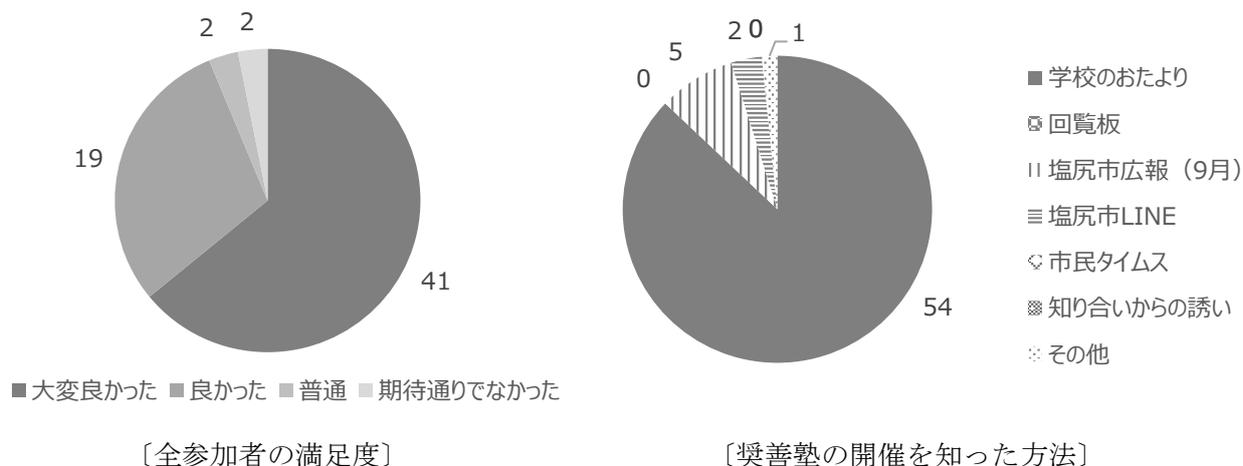


ジュエルソープづくり



絵手紙教室

【参加者アンケートの結果】



〔参加者の感想〕

- ・ 普段何気なく通り過ぎるだけの道や石碑が意味を持っていることを知り、とても興味深いと思った。
- ・ 講師の方も気さくで話かけて下さったり、技のポイントを教えてくださいと、子どもたちも夢中になって楽しんでいたので参加して良かった。
- ・ 普段利用させてもらっている地元の和菓子屋さんにご指導いただき、美味しい美しい和菓子が出来上がって大満足。

奨善塾自体については、広丘小学校の家庭か地域からの参加者かによらず、満足度の高い回答結果となった。参加者の感想からも、講座自体への満足度や、講師との関係性の中で地域とのつながりを感じて頂いたことが分かった。

また、本研究の狙いである地域の方々へ奨善塾を知ってもらおう取り組みに対しては、塩尻市広報やSNSが有効であることが確認できた。これらの媒体の活用を継続することにより、奨善塾の認知度が向上するのではないかという手ごたえが得られた。

5 今後の課題

広丘小学校の子ども・保護者だけでなく地域からの参加者を増やすという本研究の狙いに対しては、周知を工夫することで地域の人にPTA活動に目を向けてもらうことができると分かった。一方、地域とのつながりを深めたいという目指す姿に向けては、まだ様々な課題が考えられる。

一つは、子どもたちと地域の方々の交流の深め方を追求することである。現在は子どもたちと地域の方々の接点にはなっているが、お互いのことを知りつながりを深めていくためには、参加者同士が交流するような仕組みや、地域の方が講師側として参加してもらえるような取り組みが必要になるのではないかと考えている。現在はPTAと公民館での活動となっているが、コミュニティスクールや学校運営協議会とも連携し、組織的な取り組みとすることで幅を広げられないか検討していきたい。

また、別の課題として一つは講座の参加可能人数に制限があることが挙げられる。人気講座は広丘小学校の子ども・保護者だけでも抽選となってしまう、地域の方にも参加しようとしてもらおうとすると、広丘小学校の子どもたちが参加できなくなってしまう。参加可能人数の制限は、講師が対応可能な人数に限りがあることや、教室等の会場の広さの制限によって生じている。こちらも一筋縄に解決できないと考えており、PTA会員の知恵も集めながら検討を深めていきたいと考えている。